

平成29年度 第2回 東播臨海広域ごみ処理連絡会議

会 議 録

1 開会及び閉会の年月日時並びに場所

開会：平成30年2月6日（火）午後1時30分

閉会：平成30年2月6日（火）午後2時20分

場所：高砂市南庁舎5階大会議室

2 会議に出席した者の職及び氏名

会長（議長） 高砂市長 登 幸 人

委員 加古川市長 岡 田 康 裕

委員 稲美町長 古 谷 博

委員 播磨町長 清 水 ひろ子

3 議事

(1) 平成29年度 広域ごみ処理事業について

(2) 平成30年度 広域ごみ処理事業について

(3) その他

4 議事の経過及び確認事項

○平成29年度 第1回東播臨海広域ごみ処理連絡会議（平成29年10月11日開催）会議録を確定。

(1) 平成29年度 広域ごみ処理事業について

○事務局から議事（1）について説明。

・平成29年度広域ごみ処理事業に係る事業スケジュールについて説明。

・平成29年度広域ごみ処理事業特別会計について、一部費用の執行額確定に伴う補正予算を3月定例会に上程すること、周辺道路整備事業における一部道路整備工事の年度内の完了が見込めないことから、それに要する経費を次年度に繰り越すことを説明。また、その他不用額等は決算対応とすることを説明。

・平成29年度実施の広域ごみ処理施設周辺整備事業について説明。

○議事（1）について確認した。

(2) 平成30年度 広域ごみ処理事業について

○事務局から議事（2）について説明。

・平成30年度広域ごみ処理事業に係る事業スケジュールについて説明。

・平成30年度広域ごみ処理事業特別会計予算（案）について、平成29年度と比較し、約48,000千円の減となる予定であることを説明。

・平成30年度実施予定の広域ごみ処理施設周辺整備事業（周辺道路整備、「梅ノ井」井戸枠移設工事、安全確認カメラ設置工事）の内容について説明。

○議事（2）について確認した。

(3) その他

○事務局から「広域ごみ処理施設建設工事進捗予定表」及び「広域ごみ処理施設建設工事通信」について説明。

○各市町のごみ減量について確認した。主な発言は以下のとおり。

・加古川市長

加古川市のごみ減量の現状を報告する。10月から粗大ごみの戸別有料収集が始まり、年明けからごみステーションでの雑がみ回収を月2回に増やしている。また、会社等からの機密書類は溶解処理施設へ搬入している。戸別有料収集の実績等について環境部長から説明する。

・加古川市（環境部長）

配布資料「粗大ごみ戸別有料収集事業の実施状況について（平成29年10月～12月）」について説明。

・高砂市長

戸別有料収集による減量で目標にしている数値はあるのか。また、実績との比較はどのようなものになっているか。

・加古川市（環境部長）

年間平均2,400tの粗大ごみが排出されており、そのうちの約8割、2,000tの削減を目標としている。先進他都市で75～85%の削減実績を参考に目標値を設定した。

・高砂市長

市民の反応はどのようなものか。

・加古川市（環境部長）

収集開始直後は、従前処理困難物扱いであった大型マッサージチェアが収集対象となり、その収集依頼が多くあった。利用者としては、単身高齢者からの依頼が多く、1回の申込で5点までの収集としているところを複数回申込まれている例もある。周知は徐々に浸透しているものと思われる。

・高砂市（広域ごみ処理施設建設推進室参事）

高砂市は、下水道汚泥及びし尿汚泥の再資源化、加古川市、播磨町でごみ処理を委託するにあたっての分別の細分化、また、拠点回収の実施などにより、可燃ごみは34年度の目標値に近づきつつあるが、粗大・不燃ごみについてはもう少し努力が必要であると考えている。

・稲美町長

雑がみの収集回数を月2回に増やしたことによる可燃ごみの大幅な減少を期待している。分別の徹底を自治会に対して常に呼びかけを行っていきたい。また、ごみ減量に直接つながるものではないが、今年度から独り住まいの高齢者向けのふれあい収集を行っている。出されるごみの大部分は一般家庭に加えて事業系のごみであり、最近の経済活動の活性化に伴い、稲美町も事業系ごみの排出量が右肩上がりになっている。処理手数料を上げたが、減量の効果として出ているように感じられない。さらなる値上げ

はできないので、より一層のごみ分別、リサイクルの徹底を事業者をお願いするしかない。ごみ減量化対策のひとつとして、稲美町でも有料化の可能性を今後の検討課題としたい。

・播磨町（すこやか環境グループ統括）

住民の協力もありごみ減量化は順調に進んでいる。1月末で昨年度同時期と比較して可燃ごみは1～2%の減量となっており、引き続き減量化を推進していきたい。今後は事業系ごみの減量にも取り組むために事業者向けのチラシを作り、啓発に努めたいと考えている。

・加古川市長

加古川市の減量進捗状況は、平成25年度実績からの20%削減を目標にしているが、29年度4月～1月までの10か月間について平成25年度の同時期と比較すると10.8%の減となっている。しかし、内訳をみるとその半分は剪定枝のリサイクルであり、税金を投入することによる減量効果で、啓発を含めた諸活動による減量効果は半分しかない。さらに10%削減しなければいけない状況において、家庭に向けては雑がみ分別、粗大ごみ戸別有料収集、生ごみの水切り等をお願いしているが、今後は家庭から出る剪定枝・草の別収集を検討するほか、事業系向けの啓発を強化すべきとの声があることから、クリーンセンターへの搬入車両検査の頻度を上げて厳しくチェックを行っていく。また、排出事業者に対しては雑がみ分別を啓発するためのグッズとして専用箱の購入や、機密文書の溶解処理を認知してもらうための活動を行いたい。ただし、数字の推移によっては指定ごみ袋制の導入についてやむを得ない状況にもなりつつあるので、有料化の検討も含め現状の活動でどこまで減量を進められるかなど今後の方策について議論する会議体を立ち上げて来年度は進んでいく話をしている。

・高砂市長

今後も各市町担当者間で情報交換を行い、減量について取り組んでもらいたい。

5 その他連絡事項

なし

(傍聴者3名)

以上